



Fresenius Medical Care

2007年6月25日

2007.6.25 イタリア・Prof. Francesco Locatelliらは、**EDTA/ERA** (バルセロナ) 学会にて **HD療法 (血液透析)** においてローフラックス膜群に比較してハイフラックス膜群 (大多数がフレゼニウス メディカル ケア社製) で**37%の死亡率の改善**がみられたことを発表しました。

新しい研究により検証；ハイフラックス膜群は透析患者の予後を改善する。

多くの透析患者において、ローフラックス膜よりもハイフラックス膜を使用した治療を受ける方が生存の可能性が高まる。これは、LeccoにあるAlessandro Manzoni病院のイタリア人腎臓医、Francesco・Locatelli教授の統括の下で実施された国際的な研究の結論である。

この研究結果は、バルセロナで開かれたEDTA/ERA学会にて先週発表された。この研究は3年から7年半の研究期間において、ハイフラックス膜で治療を受けた低血中アルブミン濃度の透析患者群の方が、ローフラックス膜と比較して37%死亡リスクが低くなったことが示されている。国によるが、56%から85%の透析患者の血中アルブミン濃度は低い値であった。(4g/dL、またはそれ以下)

この研究は、ヨーロッパ9カ国において、7年半以上続けられた。738名の患者が、週3回の透析治療を受けた。そのうち半数はハイフラックス膜治療を受け、そのうち大多数はフレゼニウス メディカル ケア社製品を使用、残り半数はローフラックス膜にて治療を受けた。

この研究は、ハイフラックス膜が重篤な慢性腎臓病患者の死亡リスクを低下させるということを科学的に証明した初の前向き無作為臨床研究である。低い死亡リスクを示唆する同種の研究は、90年代半ばにはすでに出されていた。

専門家は、このハイフラックス膜による生存率の改善は、分子量が大きい尿毒素質の血中からの効果的な除去によるものと帰結している。ハイフラックス膜は、除去性能が高く、ローフラックス膜と比較して、膜の細孔が2.5倍大きい。ハイフラックス膜の除去能力は通

常腎機能により近く、多量の水分と尿毒素物質を短い時間で除去する。ハイフラックス膜は残存腎機能をより長く保持する可能性も示唆される。

フレゼニウス メディカル ケア ジャパン株式会社